

**InterBEE2011 で、ホワイトスペースを利用した
災害支援エリアデータ放送システムを展示**

TBSテレビは、11月16日から18日までの3日間、幕張メッセで開催される国際放送機器展(InterBEE2011)において、ホワイトスペース特区の活動に関する展示を行います。

今年、東日本大震災を受けて、TBSテレビが(株)ヨーズマーと共同開発した「災害支援エリアデータ放送システム」を「総務省ホワイトスペース推進会議ブース」に展示します。

このシステムは、災害発生直後に被災地へ持ち込むことを想定したコンパクトな放送機器で、ハイビジョン放送にデータ放送を簡単に入力できるエリア放送システムです。このシステムを実用化している「南相馬エリア放送」の一部映像もアクトビラサービスを用いて幕張まで配信して展示します。

また、InterBEE開催初日の16日10:30からは、南相馬市と(株)ヨーズマーの主催で「南相馬市エリア放送に関するシンポジウム」を実施します。これは、TBSテレビが(株)ヨーズマーとエリア放送用機材を開発していることや、TBSテレビが震災当初から南三陸支局を立ち上げるなど震災報道に積極的に対応してきたことから実現したものです。このシンポジウムでは、桜井南相馬市長や森田総務大臣政務官の挨拶に続き、三友仁志早大教授をコーディネーターとしたパネルディスカッション(TBS担当もパネラーとして参加)も予定されています。

ホワイトスペースとは、放送等の目的で帯域の割当てが行われているものの、地理的要因やその他の理由で実際は利用されていない電波帯域のことです。TBSは昨年7月に、このホワイトスペースを利用した実験を推進するホワイトスペース特区先行モデルの認定を受け、各種実験活動を行っています。

以上